

「連載」武州みたけの信仰⑩ すくなびこなのみこと 少彦名命について(上)

國學院大學教授
神道學博士

三橋 健

常世の神としての

少彦名命

小さな神としての

少彦名命

武蔵御嶽神社には大己貴命とともに少彦名命をお祭りしてあります。今回から少彦名命についてお話することになります。

記紀神話には、少彦名命の素性を、次のように記してあります。

—— 大国主神(大己貴命)が出雲の美保の御崎にいた時、波の彼方からアメノカガミという船に乗って、とても小さな神が漂着いたしました。その神は、蛾(が)の毛皮を着ておりました。大国主神は、

その神の素性を知りたいと思いい、名前を聞いてみました。答えてくれませんか。

その時、そばにいたタニグク(ヒキガエルのこと)が、「もの知りのクエビコ(山田の案山子のこと)なら知っているだろう」といいました。すぐにクエビコに聞いてみると、この神は

神産巢日(かむむすひ)の神の子で、名前は少彦名(すくなびこな)であることがわかりました。

さっそく、大国主神は使者をたて、神産巢日の神に聞いてみますと、「自分の子は、全部で千五百人いるが、一人だけ小さくて指のあいだからもれ落ちた子がいる。その子が少彦名で

ある」

とお答えになり、続いて、「あなたと少彦名と兄弟となり、この国土を堅固なものに作りなさい」と命じられました。

このように記紀神話には伝えてあります。わが国土は、その頃はまだ葦の生い茂った原であって稲などを作るのに適してありませんでしたので、大国主神と少彦名は協力して、国土を作り、固めたのであります。

なお、少彦名命が小さい神であったことは『日本書紀』にも、大己貴神の掌(てのひら)の中で少彦名命は飛んだり跳ねたりしたとあることからあきらかです。

また記紀神話は、国土を作り終えた少彦名命は、熊野の御崎から常世(とこよ)の国へ渡っていったと記してあります。

一説には、粟茎(あわがら)によりのぼり、はじかれて常世へ飛んでいったともいわれています。

常世の国は、はるか遠く離れたところにあると考えられてきました。そこは不老不死の国、すなわち、永遠の寿命の国であると信じられております。

少彦名命は、このような生命(いのち)の永遠の国である常世の神であり、そのことから、やがて少彦名命は酒造りの神としても崇拜されるようになります。酒は「百薬の長」ともいいますように、飲み方



岩にあらわれる少彦名神

この酒は普通の酒とは違い、常世におられ、巖(いわ)に現れる尊い神、少御神が、ほめたたえられた酒でありますよ、と歌っております。

—— この御酒(みき)は、我が御酒ならず、くしの神、常世にいます、巖(いわ)も立たす、少御神(すくなみかみ)の、とよほぎ、ほぎもとほし、神ほぎ、ほぎくるほし、まつり来し御酒(みき)——

少彦名命の略称であり、この神は常世の国におられるとあります。注意されるのは、ここでは少彦名命が酒造りの神として崇拜されていることです。

岩として現れる

少彦名命

ところで、前に掲げた酒をほめたたえた歌ですが、少彦名命が巖(いわ)にあらわれると歌っております。

巖(いわ)は岩の秀(ほ)で、大きな岩が突き出たところであります。稲穂や波の穂(ほ)の場合ですと、波が盛り上がった先の所のことであります。

このように少彦名命は、岩石の先端に現れる神とみえますが、それについては『古事記』の仲哀天皇の段に「石立たす少名御神」と見えております。

さらに『文徳実録』の斉衡(せいこう)三年(八五六)十二月のところに、次のように記すことが注目されます。

—— 常陸の国(茨城県)から中央政府にたいして、次のような報告がありました。鹿島郡の大洗磯前(おおあらい)に新しく神が現れまして、塩たきの翁が夜中に海のかなたを見たと、光り輝くものがありました。その翌日、不思議な二つの石がなぎさに立っていました。その石の高さは一尺(約三十センチ)ばかりあり、それらはとても人間が作ったものとは考えられません。

さらにその翌日、二十余りの石が、これらの二つの石の左右に、まるでお伴をしているように並んでいました。その後それらの神は、次のように託宣(たくせん)いたしました。

「我らはオオナモチの神と

スクナヒコナの神である、この国土を造り終わって、東海に去ったが、今また人々を救うためにやって来た」と。

これは現在、茨城県東茨城郡大洗町に鎮座している大洗磯前神社の起源を伝えた縁起であります。通称「大洗さま」の名で親しまれております。ついでに、同県的那珂湊市磯崎町に酒列(さかつら)磯前神社が鎮座してあります。社名の「酒」と少彦名命とは関係がありそうですが、それはしばらくおき、両者はともに式内社で、いずれも大己貴命と少彦名命を祭っております。

また、両社とも天安元年(八五七)八月、官社(かんしゃ)となり「薬師菩薩名神」との名をたまわっております。『延喜式神名帳(えんぎしきじんみょう)』にも「大洗磯前薬師菩薩神社」「酒列磯前薬師菩薩神社」との名で記載されております。